

# 環境経営レポート



活動期間：2022年8月1日～2023年7月31日

発行日：2023年11月10日

改定日

## 目次

- I. 事業の概要
- II. 推進体制
- III. 環境経営方針
- IV. 環境経営目標（年度別）とその実績
- V. 環境経営実績とその評価及び次年度の取組内容
- VI. 環境経営計画の取組内容とその評価及び次年度の取組内容
- VII. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無
- VIII. 代表者による全体評価と見直しの結果

丸高産業運輸 株式会社

# I. 事業の概要

## 1. 事業所及び代表者

事業所名	丸高産業運輸 株式会社
代表者名	代表取締役社長 長縄 弘貴

## 2. 所在地

本社・営業所	大分県大分市向原1丁目7番39号	TEL: 097-552-1767 FAX: 097-551-8625
--------	------------------	--

## 3. 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者	長縄 弘貴
ea21事務局	長縄 弘貴 E-mail:

## 4. 事業内容

事業内容	一般貨物自動車運送事業（取得日：昭和45年6月9日 許可No.：福陸自第2075号） 軽油販売
------	--

## 5. 事業の規模

設立年月日	昭和45年10月22日		
資本金	15,000千円		
従業員数	26名		
車両保有台数	◎大型牽引		5台
	◎被牽引		5台
	◎13t平車	低床	10台
		中低床	1台
		高床	台
	◎13tウイング車	低床	5台
		高床	3台
	◎5t平車	簡易クレ付	1台
	◎3t平車	簡易クレ付	1台
	合計	31台	

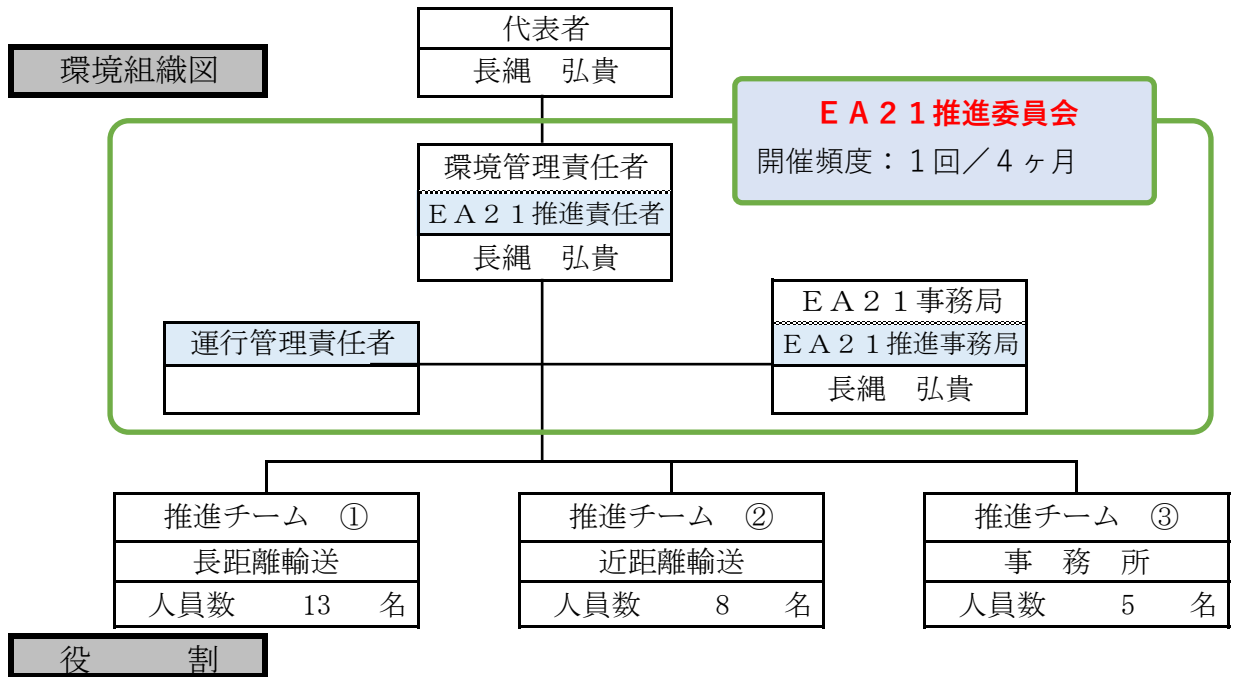
## 6. 会計年度

8月～7月

## 7. 認証・登録範囲

全事業所及び全事業活動を対象とする

## Ⅱ. 推進体制



### 【代表者】

- ・環境経営に関する統括責任者
- ・環境経営における課題とチャンス进行明確化する。
- ・環境経営に必要な経営資源（人・物・資金）を準備する
- ・環境管理責任者の任命
- ・環境経営方針を定める
- ・環境経営目標、環境経営活動計画、実施体制を承認する
- ・代表者による全体の評価と見直しを実施する
- ・環境経営レポートの承認

### 【環境管理責任者】

- ・環境管理システムの構築、運用、管理に関する責任者
- ・環境経営システムの運用、管理状況を代表者に報告する
- ・エコアクション21推進委員会の責任者
- ・環境関連法規等のとりまとめ表の承認、遵守状況チェック結果の承認
- ・環境経営目標、環境経営計画、実施体制の確認
- ・環境上の緊急事態の想定及び対応策の承認
- ・問題点の是正及び予防処置の承認
- ・環境経営レポートの確認

### 【EA21事務局】

- ・環境管理責任者の補佐、エコアクション21推進委員会の事務局
- ・環境経営関連文書、記録の管理
- ・環境経営に関する実績のとりまとめ
- ・外部環境コミュニケーションに関する窓口
- ・環境経営レポートの作成

### 【エコアクション21推進委員会】

- ・環境経営目標、環境経営計画の企画/立案…事務局にて実施
- ・環境経営目標、環境経営計画の伝達…運行責任者にて実施
- ・各部門の実施状況、目標達成状況、問題点などの報告…事務局にて実施
- ・環境経営に関する意見交換

### 【全従業員】

- ・環境経営方針、環境経営目標などの理解と自らの役割を自覚する
- ・自主的、積極的に環境経営活動に参加する

# Ⅲ. 環境経営方針

## (基本理念)

当社は創業以来、安全第一の精神に徹し、顧客に安心して業務依頼していただける企業としてやってまいりました。

環境に於いては、ますます深刻化する地球温暖化への対応や、有限である資源の有効利用を推進します。そのために、貨物の輸送活動における環境負荷の低減や、環境に有益な事業活動を目指し、会社一丸となって自主的・積極的に環境への取組みを推進いたします。

## (行動指針)

1. 当社は、次の環境課題に取り組めます。

- ①車両運行に伴う燃料消費による二酸化炭素排出量の削減
- ②環境に配慮した輸送活動の推進
- ③電力消費による二酸化炭素排出量の削減
- ④LPG消費による二酸化炭素排出量の削減
- ⑤水使用量の削減
- ⑥廃棄物の減量、再使用の推進
- ⑦グリーン購入の推進
- ⑧社会貢献活動への参加

これらについて環境経営目標・環境経営活動計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。

2. 環境関連法規制や、環境への取決め事項を遵守します。

制 定 日 : 2015年 7月1日

改 定 日 : 2022年12月5日

丸高産業運輸 株式会社  
代表取締役社長 長縄 弘貴

## IV. 環境経営目標とその実績

基準年度：2018年度（平成30年8月1日～令和元年7月31日まで）

目標年度：2020（令和2）年度～2022（令和4）年度

	2020年度	2021年度	2022年度
	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%	基準年度比▲4%

方針番号	選択課題	基準年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022年度
		2018年度				
		実績	実績	実績	目標	実績
1	二酸化炭素排出量削減 単位：t-CO <sub>2</sub>	2,279	1,941	1,814	2,188	1,750
1-1	電力消費量削減 単位：KWh	13,881	10,962	10,750	13,326	10,841
1-2	ガソリン消費量削減 単位：ℓ	4,744	3,234	2,863	4,554	3,335
1-3	軽油消費量削減 単位：ℓ	877,297	747,127	698,601	842,205	673,385
1-4	LPガス使用量の削減 単位：kg	16.97	36.70	35.60	16.29	29.10
2	水使用量の削減 単位：m <sup>3</sup>	352	234	222.5	338	394.0
3	廃棄物の削減と再資源化の推進	タイヤの消費量の把握し、再資源化を推進				
4	グリーン購入の推進	大分市内だけを走行する車両は、再生タイヤを利用。				
5	社会貢献への参加	周辺道路の清掃及び草刈り等の実施 養護施設への支援（花壇にチューリップを植える）				

※九州電力 2022年度調整後排出係数0.453kg-CO<sub>2</sub>/kwh

※ コロナの影響のなかった2018年度を基準年度に設定したが、仕事量の低下が継続し、大幅な二酸化炭素削減量となった。これからの仕事量の回復を注視する。

**モーダルシフトによる軽油使用量削減量 127,400 リットル/年** （6p参照）

## IV. 新たに設定する環境経営目標

基準年度：2020年度及び2022年度を基準とする。

目標年度：2023(令和5)年度～2025(令和7)年度

	2023年度	2024年度	2025年度
	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%	基準年度比▲4%

方針番号	選択課題	基準年度	基準年度	2023年度	2024年度	2025年度
		2020年度	2022年度			
		実績	実績	目標	目標	目標
1	二酸化炭素排出量削減 単位：t-CO <sub>2</sub>	1,941		1,902	1,883	1,863
1-1	電力消費量削減 単位：KWh	10,962		10,743	10,633	10,524
1-2	ガソリン消費量削減 単位：ℓ		3,335	3,268	3,235	3,202
1-3	軽油消費量削減 単位：ℓ	747,127		732,184	724,713	717,242
1-4	LPガス使用量の削減 単位：kg	36.70		35.97	35.60	35.23
2	水使用量の削減 単位：m <sup>3</sup>		394	222.5	338	394.0

- ・働き方改革における2024年問題で、ドライバーの労働時間が短縮されます。  
そのためフェリーを利用しない場合の走行可能距離は、物理的に大幅に短縮します。  
燃料高騰の中、フェリーの燃料サーチャージを負担しても持続可能な環境経営を目指す必要がある。
- ・荷主企業と情報共有をしながら、理解をいただき、環境経営ができる基盤づくりが不可欠。  
つまり2024年問題は、環境経営を訴えながら実現していくものだと考えます。  
そのため、あえて2020年度及び2022年度の数値を基準年度に設定しました。

# V. 環境経営実績とその評価及び次年度の取組内容

2022～23年度 環境取組実績（令和4年8月～令和5年7月）

達成状況評価：◎目標達成 △目標未達で基準値達成 ×目標未達で基準値未達

取組内容	指標の区分	指標の値 (年計)		達成状況 達成率 (対：目標)	月別推移（比較）表
		値	(単位)		
1. 二酸化炭素 排出量削減	基準値	2,279	t-CO2	◎  <b>125.0%</b>	
	目標値	2,188			
	実績値	1,750			
結果の評価・考察 今後の取組					
* コロナの影響により、大幅に輸送量が減少。二酸化炭素の排出を大きく削減できたが、継続的に大きな打撃を受けている。					
2. 電力 使用量の削減	基準値	13,881	KWh	◎  <b>122.9%</b>	
	目標値	13,326			
	実績値	10,841			
結果の評価・考察 今後の取組					
* 通期に渡り、省電力タイプのエアコンが貢献し、換気を行う時間が増えたが、使用量は減少した。					
3. ガソリン 使用量の削減	基準値	4,744		◎  <b>136.6%</b>	
	目標値	4,554			
	実績値	3,335			
結果の評価・考察 今後の取組					
* 営業活動・出張等がコロナの影響で大きく減少。しかし、経済活動は6月くらいから平常化。					
4. 軽油 使用量の削減	基準値	877,297	ℓ	◎  <b>125.1%</b>	
	目標値	842,205			
	実績値	673,385			
結果の評価・考察 今後の取組					
* コロナ禍の影響で、輸送量が回復していない。去年に続き過去最低の使用量となった。 * 経営的にも厳しい状況が続くが、継続的にモーダルシフトと高速道路の利用を推進した。					

# V. 環境経営実績とその評価及び次年度の取組内容

2022年度 環境経営取組実績（令和4年8月～令和5年8月）

達成状況評価：◎目標達成 △目標未達で基準値達成 ×目標未達で基準値未達

取組内容	指標の区分	指標の値 (年計)		達成状況 達成率 (対：目標)	月別推移（比較）表				
		値	(単位)						
<p><b>* モーダルシフト推進効果（参考）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大分⇄神戸間のフェリー利用</li> <li>①走行距離 640km/片道</li> <li>②燃料消費率 3.20km/ℓ 当り</li> <li>③フェリー利用台数 591台/2021年度実績 637台/2022年度実績</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>軽油使用量 削減効果</td> <td>127,400 ℓ/年</td> </tr> <tr> <td>CO2排出量 削減効果</td> <td>328.7 t-CO2/年</td> </tr> </table>						軽油使用量 削減効果	127,400 ℓ/年	CO2排出量 削減効果	328.7 t-CO2/年
軽油使用量 削減効果	127,400 ℓ/年								
CO2排出量 削減効果	328.7 t-CO2/年								
5. LPガス 使用量の削減	基準値	16.97	kg	×	<p>フェリー利用台数 (単位：台)</p>				
	目標値	16.30							
	実績値	29.10				56.0%			
<p>結果の評価・考察 今後の取組</p> <p>* コロナ対策での清掃作業及び時間が増加した。 今後も意識を持って取組をする。</p>					<p>LPガス使用量 (単位：m³)</p>				
6. 水 使用量の削減	基準値	351.0	m³	×	<p>水使用量 (単位：m³)</p>				
	目標値	337.0							
	実績値	394.0				85.5%			
<p>結果の評価・考察 今後の取組</p> <p>* スタンドで洗車できるチケットを配布していたが、経費削減のため自社での洗車に変更した。 * コロナ対策のため手洗い、清掃を推奨。</p>					<p>7. 廃棄物の削減と再資源化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 2020年度のタイヤ消費量 196本</li> <li>* 2021年度のタイヤ消費量 109本</li> <li>* 2022年度のタイヤ消費量 137本</li> </ul>				
8. グリーン購入の推進					<p>* 大分市内走行のみの車両には、できるだけ再生タイヤを使用。 (今年度の購入は24本。)</p>				
9. 社会貢献への参加					<p>* 運送組合で、養護施設での花壇整備。 * 自社周囲の清掃：随時実施 * 災害時の募金活動</p>				



## VI. 環境経営計画の取組み内容とその評価及び次年度の取組み内容

### 1. 環境経営計画の取組み結果とその評価、次年度の取組み内容

数値目標：○＝達成 ×＝未達成

◎＝よくできた ○＝まあできた △＝あまりできなかった ×＝全くできなかった

取 組 計 画	達成状況	取組み結果とその評価、次年度の取組み内容
<b>電力消費量の削減</b>		
数 値 目 標	◎	空調機をガスヒートポンプの省電力タイプを採用した。コロナ対策のため換気していても、目標を達成できた。但し、前年度より電気代は増加している。
・ 不必要箇所の照明及び空調機の消灯	◎	
・ 冷暖房温度室温の設定（夏季28℃・冬季20℃）	△	
・ O A 機器の退社時の電源OFF	◎	
<b>ガソリン消費量の削減</b>		
数 値 目 標	◎	コロナ禍の影響が治まりつつあり、会議や出張なども少しずつ増えている。引き続きエコ運転を推進する。
・ 駐車時のエンジン停止の推進	○	
・ エコ運転の推進（急発進・急停車・急加速の防止）	○	
<b>軽油消費量の削減</b>		
数 値 目 標	◎	フェリーと高速道路の利用促進は継続。コロナ禍の影響を通期にわたって受け、輸送量が大幅に減少。フェリーの燃料サーチャージの荷主負担が一部成功し、フェリーの使用が増えた。
・ 駐車時のエンジン停止の推進	○	
・ エコ運転の推進（急発進・急停車・急加速の防止）	○	
・ モーダルシフト（フェリー利用）の推進	◎	
・ 高速道路の利用推進	◎	
<b>L P ガス使用量の削減</b>		
数 値 目 標	×	熱中症対策として、麦茶やお茶を支給した。コロナ対策で清掃のために使用が増加した。
・ 不必要な温水器の使用防止	×	
<b>水使用量の削減</b>		
数 値 目 標	×	これまでガソリンスタンドで洗車できるチケットを配布していたが、経費削減のため中止した。自社での洗車ため水の使用量は増える見込み。
・ 洗車の水使用削減	△	
・ 温水器等の適量な給湯等	○	
・ 出しっ放し防止	○	
<b>廃棄物排出量削減・再利用</b>		
・ ゴミの分別の徹底	○	コピー用紙の再利用は徹底している。廃タイヤを再生タイヤとしてリサイクルできるよう努力する。
・ コピー用紙の裏紙使用の推進	◎	
・ タイヤの再資源化の推進	△	
<b>グリーン購入の推進</b>		
・ コピー用紙等のエコマーク商品の購入	◎	取組項目については今後も強化。
・ 省エネ対策品の積極購入 再生タイヤの購入	○	
<b>社会貢献への参加</b>		
・ 周辺道路の清掃実施2回/年・・・（春・秋）	○	継続する。
・ 養護施設への支援（チューリップの植樹）	◎	

## VII. 環境関連法規の違反・訴訟の有無

### 1. 主な適用法令の概要と遵守評価結果

遵守状況評価日：2022/10/28

適用法令等	該当する規制	遵守項目	遵守評価
廃棄物処理法	産業廃棄物の適正処理（処理業者への委託）	委託契約書	○
	産業廃棄物監理票（マニフェスト）の交付	5年間保存	○
	管理票交付状況の県知事への年度報告	管理票交付状況報告書	○
道路運送車両法	所有車両の法定点検（車検）	車両分解整備記録簿	○
	所有車両の法定点検（3ヶ月点検）	整備記録簿	○
	所有車両の日常点検	運転日報の点検記録	○
消防法	貯蔵施設の点検	点検記録	○
	危険物取扱者の届出	届出	○
	地下貯蔵タンクの内面ライニング	施設変更届出	○
貨物自動車運送事業法	一般貨物自動車運送事業の運用管理	運用管理全般	○
道路交通法	所有車両の運行状況	運行管理全般	○
自動車リサイクル法	廃車車両の適正処理	自動車リサイクルシステム	○
自動車NOx・PM法	大気汚染の防止	尿素SCR装置装備車	○
改正フロン法	業務エアコンの自主点検（毎3ヶ月）	点検記録	○
	業務エアコンの定期点検（毎3年）	点検記録	○

\*貯蔵施設（地下タンク）の定期検査 2023.5.20 大分市及び消防署へ届出済

### 2. 環境関連法規等の違反、訴訟等の有無

- ・環境関連法規への違反行為はありません。
- ・関係当局からの違反等の指摘は過去3年間ありません。

： 2023年11月10日

## VIII. 代表者による全体の評価と見直し

評価対象の期間 2022年8月1日～2023年7月31日

### 1. 代表者への報告と代表者からのコメント

見直し実施日：2023年11月6日

No.	報告項目	報告内容・所見	代表者のコメント
1	環境法規等の遵守状況確認結果	特に問題はなかった	問題なし
2	環境経営目標の達成状況	目標達成ができた。運賃交渉が去年より進んでいるが、まだ道半ばな状態。	フェリーや高速道路の利用を継続しているが、経営的に厳しい。
3	環境経営計画の実施状況	推進者を社長が兼ね活動は継続している。	管理者を育成中。
4	問題点の是正、予防の状況	フェリー・高速道路を継続利用するためには、適正な運賃が不可欠となる。燃料サーチャージを浸透させる。	急激な原油高で、環境経営の維持が厳しい。運賃値上げが急務だが、難しい。
5	外部からの苦情の有無及び対応結果	苦情等は1件もなかった	問題なし
6	環境上の緊急事態の訓練結果及び対応結果	給油所の燃料漏れ対策。年1回程度（前回実施：2023年5月20日）の実施を継続。ウエス・中和剤等の保管管理に注意する。	問題なし
7	その他		

### 1. 見直しの必要性判断と代表者の指示

	指示項目	変更の必要性和指示内容	
		変更の必要性	指示内容
1	環境経営方針	変更の必要性	無
		指示事項	継続する
2	環境経営目標	変更の必要性	無
		指示事項	継続する
3	環境経営活動計画	変更の必要性	無
		指示事項	継続する（事務局の人員確保を図る）
4	実施体制	変更の必要性	経済的有効性を検討する必要性あり。
		指示事項	
5	その他	変更の必要性	無
		指示事項	CO2の削減は必ず実施しなければならないことであり、今後も積極的な取り組みを行う